

徳島大学留学生アンケート調査 －留学生の目的と経験の評価、今後の課題－

竹内光恵

TAKEUCHI, Mitsue

徳島大学国際センター

要旨：徳島大学国際センターが担う留学生リクルート支援活動をより効果的に行うために必要な知見を得るため、留学生アンケートを実施した。徳島大学に在籍する外国人留学生の徳島大学留学に至る経緯や留学経験の感想について調査した。調査結果をもとに、留学生が徳島大学に何を期待し、どのように評価しているかを明らかにし、どのような情報発信が効果的であるかを考察する。

1. はじめに

日本政府が2008年に発表した「留学生30万人計画」は、2020年を目途に30万人の留学生受入れを目指すものである。徳島大学では、この政策に基づいた留学生受入れの推進を図っており、国際センターには留学生獲得につながる交流支援や広報活動等が求められている。

効果的な留学生リクルートを行うためには、留学生が徳島大学に何を期待し、どのように評価しているかを知り、明確な指針を示すことが必要である。また、留学志願者がどのような情報源を利用しているかを知り、効果的な情報提供を行うことは留学生リクルートの重要な課題である(Printz, 2009)。徳島大学では学生の生活実態調査を近年定期的に行っているが(例：徳島大学2006, 2009)、留学生のみを対象とした調査は「平成14年度留学生生活実態調査」(徳島大学留学生課, 2003)以降行われていない。

そこで、外国人留学生の本学入学に至る経緯や入学後の意識を検討することにより、所属や入学動機や情報利用などの特徴や傾向を把握し、今後の戦略的な留学生リクルート及び海外協定校の新規開拓の参考となる基本的な知見を得ることを目的として調査を行った。

2. 実施方法

2.1. 調査対象

平成22年3月に開催された「第6回国際展開推進シンポジウム」及び「留学生交流懇談会」に会場した本学在学中の外国人留学生を対象とした。

2.2. 調査手段

調査票を用いたアンケート形式で調査を行い、調査票は日本語版と英語版を用意した。調査票では、本学が過去に行った平成14年度留学生時実態調査(徳島大学留学生課, 2003)及

び東京工業大学の2002年留学生満足度調査アンケート(東京工業大学, 2003)を参考にし、下記の項目について質問を行った。回答形式は、年齢の記入などの例外を除き、選択式とした。また、調査票の回答は無記名とした。

2.2.1 留学生自身について

留学生自身については、以下の質問をした。

- ①属性(性別、年齢、出身国・地域、本学の所属課程・学部)
- ②日本滞在期間
- ③在学期間
- ④学費出資者及び奨学金の受給

2.2.2 日本留学について

- ①第一希望の留学先：日本が第一希望であったか、また日本が第一希望ではなかった場合、どこが第一希望であったかを質問した。
- ②日本留学の目的・理由：徳島大学における過去の7項目(徳島大学留学生課, 2003)に東京工業大学の調査(東京工業大学, 2003)から新規となる3項目を加えた10項目(「学位取得のため」、「高度な科学・技術を学ぶため」、「家族・先生・知人の薦め」等)について、5件法ライカート尺(1.まったく違う～5.まったくその通り)を用いて質問した。
- ③来日前の日本語学習：来日前の日本語学習経験の有無、日本語学習期間、利用した日本語学習施設について質問した。

2.2.3 徳島大学留学について

- ①第一志望の大学：徳島大学が第一志望であったか、また徳島大学が第一志望ではなかった場合、どこが第一志望であったかを質問した。
- ②徳島大学留学の目的・理由：徳島大学における過去の6項目(徳島大学留学生課, 2003)

に東京工業大学の調査（東京工業大学, 2003）から新規となる 5 項目を加えた 11 項目（「入りたい学科や研究室がある」、「母国の先生・知人・友人の薦め」、「出身大学との協定」等）について、5 件法ライカート尺（1.まったく違う～5.まったくその通り）を用いて質問した。

③徳島大学留学に関する情報源：徳島大学への留学に関する情報を得る際に利用した情報源 10 項目（徳島大学ホームページ、徳島大学のパンフレット、友人・知人からの情報等）の利用頻度を 5 件法ライカート尺（1.まったく利用しなかった～5.非常によく利用した）を用いて質問した。

④徳島大学留学に関する評価と満足度：東京工業大学が行った留学の感想に関する項目（東京工業大学, 2003）を利用した 8 項目（「徳島大学に来てよかった」、「教官が十分に指導してくれる」、「できれば他の大学へ移りたい」等）を 5 件法ライカート尺（1.まったくそう思わない～5.非常にそう思う）を用いて質問した。

⑤徳島大学留学終了後の予定と希望：徳島大学での留学終了後の予定（帰国、日本に滞在する等）及び将来希望する職種（教員、研究者、会社員等）を過去の調査（徳島大学留学生課, 2003）にもとづいて質問した。

2.3. 調査手順

調査票は徳島大学在学中の留学生が参加した「第 6 回国際展開推進シンポジウム」及び「留学生交流懇談会」の受付で合計 118 部を配布した。配布時に日本語版と英語版のどちらかを選択してもらった。調査票の回収は会場出入り口に回収箱を 6 つ設置して行った。全体での調査票回収率は約 69%であったが、シンポジウム参加者からの回収率は 90%以上（日本語版 95 %、英語版 92 %）と高かった。本調査の結果は回収できた 81 名の回答に基づくものである。表 1 は各会場での配布数と回収率を示している。

表 1. 調査票の配布数と回収率

	合計	シンポジウム		交流懇談会	
		日本語	英語	日本語	英語
配布数	118	21	12	36	49
回収数	81	20	11	26	24
回収率(%)	68.6	95.2	91.7	72.2	49.0

3. 調査結果

3.1. 回答者の主な特徴

表 2 に回答者の主な特徴を示している。回答者の性別では男性の割合が多かった（男性 60%、

女性 40%）。また、回答者の半数以上（67%）が中国人留学生であり、回答者の 9 割以上がアジア地域出身であった。所属過程では、大学院が約 8 割と多く、回答者の過半数が博士課程後期の留学生だった（52%）。所属学部は工学部が 60%と過半数を占めていた。学費及び奨学金に関しては、回答者の 7 割近くが私費留学生であり、また回答者の約 8 割が奨学金及び授業料の免除を受けていた。

表 2. 回答者の主な特徴

	人数 (%)	平均値 (標準偏差、範囲)
性別（女性）	27 (40.3)	
年齢（歳）		27.86 (4.08, 21-40)
出身地域		
中華人民共和国	45 (67.2)	
その他の東アジア ^a	8 (11.9)	
東南アジア ^b	8 (11.9)	
南アジア ^c	2 (3.0)	
オセアニア及び環太平洋諸島	2 (3.0)	
中南米	2 (3.0)	
来日してからの期間（月）		25.16 (23.46, 3-108)
徳島大学在学期間（月）		23.25 (21.27, 3-108)
短期留学（はい）	13 (19.7)	
所属課程		
博士課程後期(博士課程)	35 (51.5)	
博士課程前期(修士課程)	18 (26.5)	
大学院研究生	2 (2.9)	
学部生	5 (7.4)	
学部研究生	4 (5.9)	
日本語コース	4 (5.9)	
所属学部		
工学	40 (59.7)	
総合科学	7 (10.4)	
医学	10 (14.9)	
歯学	4 (6.0)	
薬学	3 (4.5)	
その他（日本語コース等）	3 (4.5)	
主な学費出資者		
家族又は自分	47 (69.1)	
日本政府	17 (25.0)	
母国政府	2 (2.9)	
その他外国政府	2 (2.9)	
受給中の奨学金（有り）	55 (79.7)	
授業料免除		
全額免除	30 (46.2)	
半額免除	24 (36.9)	
免除を受けていない	11 (16.9)	

^a モンゴル、大韓民国、台湾を含む地域。

^b ベトナム、マレーシア、インドネシア、カンボジア、ラオス、ミャンマー、フィリピンを含む地域。

^c バングラデシュ、ブータンを含む地域。

3.2. 日本留学について

回答者の 79%（50 名）は、日本が第一希望の留学先だったと答えた。日本が第一希望でなかった場合の第一希望国・地域では、多い順に米国（8 名）、オーストラリア（2 名）、欧米（1 名）が挙げられた。

表 3 は、日本への留学を決定した理由・目的

の平均値を示している。ここでは、「学位取得のため」、「高度な科学・技術を学ぶため」、「日本は経済と技術が発展した国なので」が平均値 4.0 以上と高い数値を示した。これらのうち、「学位取得のため」と「高度な科学・技術を学ぶため」は半数以上（順に 56%、52%）が「まったくその通り」と回答した。「日本企業への就職」と「母国以外の国での就職」については、「まったく違う」又は「ほぼ違う」とした回答者が半数以上であった（順に 53%、58%）。

表 3. 日本留学の目的・理由

	平均値（標準偏差、範囲）
学位取得のため	4.14 (1.23, 1-5)
奨学金獲得のため	2.83 (1.63, 1-5)
日本留学の奨学金を得たため	2.75 (1.63, 1-5)
高度な科学・技術を学ぶため	4.27 (1.02, 1-5)
日本の経済と技術の発展	4.05 (1.07, 1-5)
日本文化への興味	3.75 (1.14, 1-5)
日本企業への就職	2.50 (1.39, 1-5)
母国以外の国での就職	2.32 (1.24, 1-5)
家族・先生・知人の薦め	3.33 (1.54, 1-5)
異国や異文化での生活経験	3.92 (1.07, 1-5)

来日前の日本語学習についての回答では、日本五学習経験の有無は「ある」と「ない」が半数ずつ（それぞれ 36 名）であった。来日前の日本語学習経験がある回答者のうち、日本語学校と大学の授業の利用が顕著であった（順に 19 名、16 名；複数回答）。来日前の平均日本語学習期間は 19.31 か月間（標準偏差：23.46；範囲 1-111 か月間）であり、半数近くの 49% が学習期間は一年未満と回答した。

3.3. 徳島大学留学について

徳島大学が第一志望であったとの回答は 77%（48 名）であった。徳島大学が第一志望ではなかった場合、第一志望とした日本国内の大学は、多い順に①京都大学（4 名）、②東京大学（2 名）、③大阪大学、鳴門教育大学、金沢大学（各 1 名）であった。

表 4 は徳島大学選択の目的・理由への回答の平均値を示している。徳島大学への留学を決めた要因として、学びたい学科や研究室の存在（平均値：3.92）と教育及び研究環境の適性（平均値：順に 3.79、3.63）が主な理由であった。また、母国の先生や友人等の勧めも、留学先の大学を決定する際に重要な要素であった（平均値：3.93）。

徳島大学留学に関する情報源の利用で「非常によく利用した」の回答が最も多かったのは、徳島大学ホームページ以外のインターネット情報（24%）であった。回答者の半数以上が「非

常によく利用した」又は「よく利用した」とした情報源は、割合の多い順に、①友人・知人（56%）、②徳島大学教官からの情報（54%）、③徳島大学ホームページ以外のインターネット（52%）であった。情報源の利用頻度の平均値は、表 5 で示している。

表 4. 徳島大学選択の目的・理由

	平均値（標準偏差、範囲）
入りたい学科や研究室がある	3.92 (1.07, 1-5)
教育環境が最適	3.79 (.99, 1-5)
研究環境が最適	3.63 (1.10, 1-5)
生活環境が最適	3.50 (1.04, 1-5)
母国の先生・知人・友人の薦め	3.93 (1.23, 1-5)
日本政府(文科省)による配置	2.74 (1.45, 1-5)
母国政府による配置	2.03 (1.25, 1-5)
出身大学との協定	2.98 (1.74, 1-5)
徳島大学に知人・友人がいる	3.04 (1.53, 1-5)
徳島で就職するため	1.60 (1.01, 1-5)
他の大学・機関に入れなかったため	1.95 (1.41, 1-5)

表 5. 徳島大学に関する情報源の利用頻度

	平均値（標準偏差、範囲）
徳島大学ホームページ	3.42 (.99, 1-5)
徳島大学ホームページ以外のインターネット情報	3.60 (1.06, 1-5)
徳島大学のパンフレット	3.05 (1.03, 1-5)
日本での徳島大学説明会	2.72 (1.28, 1-5)
母国での日本留学フェア	2.57 (1.19, 1-5)
徳島大学教官からの情報	3.41 (1.24, 1-5)
母国の出身大学教職員からの情報	2.82 (1.30, 1-5)
友人・知人からの情報	3.58 (1.05, 1-5)
日本大使館・領事館からの情報	2.40 (1.05, 1-5)
学会の国際会議での情報	2.71 (1.28, 1-5)

徳島大学における留学経験の評価と満足度では、回答者の 80% 以上が「来て良かった」、「将来役立つ知識や技能を習得した」、「良い先生と友人に恵まれている」、「指導教官が十分に指導してくれている」、「留学生へのサービスは十分だ」、「徳島大学留学に満足している」の項目に対し、「非常にそう思う」又は「そう思う」と回答した。しかし、「出来れば他の大学へ移りたい」に対し、30% 以上が「非常にそう思う」（5%）又は「そう思う」（27%）と回答していた。表 6 に徳島大学留学の評価と満足度の平均値を示す。

表 6. 徳島大学留学の評価と満足度

	平均値（標準偏差、範囲）
来てよかった	4.36 (.71, 2-5)
将来役に立つ知識や技能を習得した	4.41 (.69, 2-5)
良い先生と友人に恵まれている	4.45 (.75, 1-5)
指導教官が十分に指導してくれる	4.37 (.81, 1-5)
留学生へのサービスは十分だ	4.14 (.91, 1-5)
他の人にも勧めたい	4.09 (.89, 1-5)
出来れば他の大学へ移りたい	2.63 (1.29, 1-5)
徳島大学留学に満足している	4.22 (.75, 2-5)

最後に、表 7 に徳島大学留学終了後の予定と

希望の回答分布を示す。徳島大学での留学を終えた後の予定として、過半数が「母国へ帰る」(56%)と回答した。また、希望職種では、教員と答えた回答者が最も多かった(32%)。

表 7. 徳島大学留学終了後の予定と希望

	人数 (%)
留学終了後の予定	
帰国する	33 (55.9)
日本に滞在する	17 (28.8)
母国以外の外国へ行く	5 (8.5)
わからない	4 (6.8)
将来希望する職種	
教員	19 (32.2)
研究員	15 (25.4)
会社員	13 (22.0)
留学前の職場に戻る	5 (8.5)
学位取得のために就学を続ける	4 (6.8)
その他の職業	2 (3.4)
就職の計画はない	1 (1.7)

4. 考察

本調査の回答者の特徴では、本学に在籍する留学生の統計(徳島大学、2010)と類似する傾向が見られた。例えば、本学では、留学生に男性の占める割合が多い傾向や、中国人留学生が過半数を占め、全体の9割近くがアジア地域出身者からなる傾向がある。また、所属では大学院及び工学部を中心とした構成となっている。しかし、本調査の対象は便宜的抽出によるものであり、本学留学生の母集団を適切に代表しない可能性もあることに留意する必要がある。

日本留学の目的と理由では、高度な科学と技術を学ぶことや学位取得が強く表れていた。同時に、日本の高度な技術や経済発展、日本文化への興味も日本を留学先として選ぶ際の重要な事柄であったと考えられる。逆に、日本企業や母国以外の国での就職は、日本留学の目的として低く位置づけられる傾向があった。留学終了後の予定として過半数が「帰国する」と回答していることから、回答者の多くが日本で習得した高度な科学・技術を母国で生かしたいと考えていると考察できる。

また、回答者の8割近くが日本を第一希望の留学先としていたが、来日前に日本語学習経験があったとした回答者は半数であり、その多くの学習歴は1年未満であった。これらの結果から、来日後の日本語学習機会の充実は、日本留学を希望する留学生にとって重要な要素であるといえる。

徳島大学を選択した目的や理由の回答から、決定要因には学びたい学科や研究室の存在、学習環境、先生や知人の薦めが非常に重要であることが分かった。また、留学に関する情報源の

利用では、大学のホームページやパンフレットなどの公式情報のほか、学外ウェブサイトや友人・知人からの情報が非常に頻繁に利用されていたことが分かった。

さらに、本調査では、徳島大学での留学経験と満足度は高い傾向を示した。しかし、「出来れば他の大学へ移りたい」と感じている回答者が約3割いたことから、その原因を明らかにし、このように感じている留学生の低減に取り組む必要があると思われる。

5. 今後に向けて

徳島大学の国際化に向けた活動において、留学生の獲得と維持は重要な要素の一つである。優秀な留学生獲得には、各カリキュラムや研究分野の国際的評価を高めるなどの世界へ向けたアピールや留学生同窓会等の卒業生ネットワークを活用したリクルート活動が重要な課題となるであろう。また、留学生向けの大学公式ホームページを充実させることも重要であるが、大学公式ホームページ情報の利用率よりも、その他のウェブサイトや知人・友人等から得られる情報の利用率が高かったことから、これらの情報源の重要性を考慮して情報を発信していく必要がある。さらに、来日後の日本語学習機会を充実させることは、日本文化に興味のある海外の学生や母国で十分な日本語学習機会を得られない多くの日本留学志願者にとって魅力的な要素となるだろう。

【参考文献】

- Printz, P. J. (2009). Advertising: What, where, and when to say it. In Linda Heaney (Ed.), *NAFSA's Guide to International Student Recruitment* (pp.67-74). NAFSA: Washington, D.C.
- 徳島大学 (2006). キャンパスライフ: 第1回大学院生生活実態調査報告書. 徳島大学.
- 徳島大学 (2009). キャンパスライフ: 第2回大学院生生活実態調査報告書. 徳島大学.
- 徳島大学 (2010). 徳島大学概要 2010. 徳島大学.
- 徳島大学留学生課 (2003). 平成14年度留学生生活実態調査報告書. 徳島大学留学生課.
- 東京工業大学 (2003). 2002年留学生満足度調査アンケート報告書. 東京工業大学国際室国際企画掛.